

令和6年度第11回合同吟行会俳句大会入賞者一覧表

令和6年11月30日

17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	順位																	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	入選	茅ヶ崎俳句連盟 会長賞	岩沢日月賞	賞																	
9	9	9	9	10	10	10	12	12	13	14	17	19	19	22	23	33	総得点																	
2	7	3	6	2	7	1	8	4	6	2	8	3	7	4	8	2	10	5	8	5	9	3	14	5	14	8	11	5	17	7	16	9	24	得点
146	145	14	106	22	118	128	131	67	11	33	18	4	59	64	8	26	10	134	82	83	32	66	16	120	70	1	36	91	31	49	35	45	69	句番
秋風の奏でる耕符顕彰碑	秘め心ぼんと弾けて鳳仙花	背に赤き斑を負ふ鯉の跳ねて牙ゆ	松籟は人恋ふ歌よ石路の花	俳友の亡き吟行や天高し	店先に郷里の名前柿並ぶ	分限者の軒に這い上ぐ蔦かずら	高砂の明治のロマン敷松葉	吟行の一人ひとつの冬日差し	背の子へ一つおまけの蜜柑かな	散り敷ける千畳の銀杏広場かな	マンホール螺鈿の如く落葉嵌め	川の面に散りし木の葉にある個性	天に舞ひ地に遊びたる落葉かな	川行や一期一会の日向ぼこ	余生とは知らぬ間に過ぐ返り花	書肆に寄る吟行の途次冬ぬくし	三老女海抜ゼロの日向ぼこ	一步二歩千歩五千歩冬紅葉	銀杏散るひかりに重さあるごとく	はらはらと風の容に木の葉舞ふ	水に添ひ流れに惑ふ散落葉	実南天一粒ごとに発光す	裸木になりて大樹の力瘤	胸深く波を畳みて浮寝鳥	海鳴りの底より冬の立ち上がる	裸木や仁王のごとき力瘤	嫌な奴来れば目深の冬帽子	稲荷社の狐の阿吽黄葉晴	枯れてなほ蠟螂の目に鋭き光	冬青空をんなの覚悟らいてう碑	柿落葉ひとつひとつに風の音	樹間梳く冬の太陽らいてう碑	茶室へと誘ふ石路の花あかり	受賞句
吉住 夕香	田中 明子	瀧本 万忘	山崎 雅彦	伊藤あつ子	東 花梨	能勢 仲子	川島 健作	浜本 文子	大山 道子	秋山 かつ子	坂口 和代	清水 吞舟	塚本 治彦	長堀 育甫	松田 ます子	西岡 青波	氏名																	

特別賞			
秋山顧問	長島顧問	碓 顧問	清水会長
句番			
5	71	36	82
空に穴あけて飛び出す冬の雷	満を持し銀杏もみじの散華かな	嫌な奴来れば目深の冬帽子	銀杏散るひかりに重さあるごとく
島田美保子	岩田かつ子	塚本 治彦	大山 道子

「嘱目吟」

